

1. 事業の位置付け

事務事業名	無形文化財保存事業		
事業担当	社会教育部 社会教育課		
事業種類	○ハード ●ソフト		
総合計画の位置付け	'01	基本目標1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち	
	'02	②〈感性〉 生涯学習や文化などを通じ、豊かな感性をはぐくむ	
	'04	4 価値ある歴史的遺産を守り伝える環境をつくる	
根拠法令等	文化財保護法		
対象・受益者	民俗芸能継承団体、一般市民	事業期間	
委託、協働	【委託: 3セク・財団 企業 NPO ○その他】【協働: 】		
目的・目標		事業の概要	
郷土芸能が継承・保存され、後継者の育成が図られています。		郷土芸能の継承と後継者の育成を図るため、民俗芸能まつりの開催、演技指導者の派遣、文楽人形伝承団体及び指定重要無形文化財の保存に対する支援などを行います。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	民俗芸能まつりの開催回数				単位	回
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	1	1	1	1		
	実績	1	1	1	1		
活動指標②	指標名	人形浄瑠璃芝居保存団体数				単位	団体
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	3	3	3	3		
	実績	3	3	3	3		
成果指標①	指標名	民俗芸能まつり参加団体数				単位	団体
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	5	5	5	5		
	実績	5	5	3	4		
成果指標②	指標名	民俗芸能まつり参加者数				単位	人
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	400	400	400	450		
	実績	379	394	369	449		

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<ul style="list-style-type: none"> ■ 市民ニーズ ■ 事業目的の達成状況 ■ 市の関与の必要性 □ その他 	文化財保護法に基づき、長い歴史の中で守り伝えられてきた無形文化財について理解し、郷土の民俗芸能が保存・継承され、後継者の育成につなげるために公演の場や補助金等による支援の継続が必要です。	● 高 ○ 低
有効性	<ul style="list-style-type: none"> ■ 上位施策への貢献 ■ 市民満足度を高める方策 ■ 継続による成果向上の可能性 □ その他 	継続することが、無形文化財について市民の理解と認識の向上につながり、有効です。	● 高 ○ 低	
妥当性	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事業の目的、対象、内容 ■ 受益者負担、補助額 ■ 業務の執行体制(人員配置、業務分担) □ その他 	本市の貴重な無形文化財の保存・継承を図ることは、郷土の文化についての理解を深め、受け継がれてきた伝統を絶やすことなく将来に引き継ぐことの大切さを周知することになり、継承団体に対する支援は妥当です。	● 高 ○ 中 ○ 低	
効率性	<ul style="list-style-type: none"> ■ 業務プロセス改善による効率化の方策 ■ コスト削減の可能性 ■ 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) □ その他 	無形民俗文化財の保存・継承のため、公演の場の提供だけでなく、その事業内容を多角的な視点から考察し、有効な運営方法や手段の検討を図っていきます。	○ 高 ● 中 ○ 低	

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額	平成22年度 決算額
事業内容		民俗芸能まつりの開催、補助金の交付	民俗芸能まつりの開催、補助金の交付	民俗芸能まつりの開催、補助金の交付	民俗芸能まつりの開催、補助金の交付
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0
	一般財源	1,188	1,198	1,076	868
事業費 (A)		1,188	1,198	1,076	868
執行率 (%)		66.55	60.87	54.67	69.91
内訳	職員 (人)	1.20	1.20	1.20	1.05
	再任用 (人)	0.15	0.15	0.15	0.15
人件費 (B)		10,584	10,584	10,545	9,184
フルコスト (A+B)		11,772	11,782	11,621	10,052

4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分	平成22年度事業分
進捗状況	遅れている理由	①:予定どおり	①:予定どおり	①:予定どおり	①:予定どおり
	主な取組と成果	無形文化財の保存と伝承を目的に、市内の民俗芸能継承団体による第31回ひらつか民俗芸能まつりを平成19年11月18日(日)に中央公民館大ホールにおいて開催した。当日は、多くの市民の来場があり、市内に伝わる郷土の民俗芸能について理解を深めた。	無形文化財の保存と伝承を目的に、市内の民俗芸能継承団体による第32回ひらつか民俗芸能まつりを平成20年11月16日(日)に中央公民館大ホールにおいて開催し、市内に伝わる郷土の民俗芸能について理解を深めました。	無形文化財の保存と伝承を目的に、市内の民俗芸能継承団体に補助金を交付した。また、第33回ひらつか民俗芸能まつりを平成21年11月15日(日)に中央公民館大ホールにおいて開催し、市内に伝わる郷土の民俗芸能について理解を深めました。	無形文化財の保存と伝承を目的に、市内の民俗芸能継承団体に補助金を交付した。また、第34回ひらつか民俗芸能まつりを平成22年11月14日(日)に中央公民館大ホールにおいて開催し、市内に伝わる郷土の民俗芸能について理解を深めました。
検証結果		A:成果があがった 平成21年度への展開	A:成果があがった 平成22年度への展開	B:おおむね成果があがった 平成23年度への展開	A:成果があがった 平成24年度への展開
今後に向けた課題		必要性、有効性、妥当性の評価は高いが、効率性の部分で、事業の運営方法を検討することにより、コスト削減につながる。	必要性、有効性、妥当性の評価は高いが、効率性の部分で、事業の運営方法を検討するとともに、後継者の育成が重要な課題です。	事業の運営方法を検討するとともに、後継者の育成を支援することが重要な課題です。	地域伝統文化の継承にあたって、指導者の高齢化、後継者の育成にあたる人材不足などの課題が顕在化しており、有効な支援・協力を行うことが課題です。